



CONTENTS

- * 連携型共同研究
- * カモミール月暦
- * ランチタイム カモミール・カフェ
- * 男女共同参画週間
- * 室員インタビュー
- * 保育園たより

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」



連携型共同研究

— 2018年（平成30）度 連携型共同研究助成 採択者決定 —

本制度は、平成27年度に採択された科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」（代表機関：岐阜大学）の一環として、同事業の共同実施機関（岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社）および岐阜県内の女性研究者の研究力向上を図り、研究者同士の交流、地域への定着、さらには上位職登用につながるような「地域循環型研究者育成」をめざして実施しています。

2018年度は、すでに実用化段階にある共同研究に対して研究費用を助成するものであり、厳正な審査の結果、今年度は岐阜大学で4件（共同実施機関の合計：7件）の共同研究が採択されました。

柴田早苗准教授（応用生物科学部）

「プロポリスを含有する動物用創傷保護剤の製品化に向けた研究」

山根京子准教授（応用生物科学部）

「ワサビの甘味の客観的評価方法の確立」

稲垣瑞穂助教（応用生物科学部）

「授乳と離乳による微生物共生関係の変換点：離乳食開始の指標づくり」

小山真紀准教授（流域圏科学研究センター）

「生きづらさ学研究成果の出版」

※上記は岐阜大学での採択課題。研究代表者名のみ掲載。

2019年2月には採択課題（4機関合計7件）の研究成果報告会が開催される予定です。上記の研究課題に関心のある方や次年度の応募を検討されている方など、多くの方々のご参加をお待ちしております。

カモミール月曆 (室長からのメッセージ)

副学長(多様性人材活力推進担当) 林 正子

—— 多様なあり方(LGBT)の支援に向けて ——

皆さん、昨年10年ぶりに改訂された岩波書店『広辞苑』第7版における「LGBT」の解説文が訂正されたとの年頭のニュースをご記憶でしょうか。また、著名な経済評論家が同性のパートナーとの同居を公表したニュース、同性愛や同性婚をテーマとするテレビドラマが話題となっている最近の動向に詳しい方々も大勢いらっしゃるでしょう。

『広辞苑』第7版の修正された解説文によれば、「LGBT」とは、

1. レズビアン・ゲイ・バイセクシャルおよびトランスジェンダーを指す語。
2. 広く、性的指向が異性愛でない人々や、性自認が誕生時に付与された性別と異なる人々。

と説明されています。当初は、「多数派とは異なる性的指向をもつ人々」と記述されており、「T」のトランスジェンダーについて、「心と体の性が一致しないことを指すもので、性的指向とは関係がない」と指摘され、上記のような訂正に至ったとされています。

このような「性」の多様なあり方を尊重し、LGBTの支援に取り組む大学や企業が増えています。専任職員と学生スタッフが常駐する早稲田大学「GSセンター」では、LGBTの学生と支援者らが自由に使えるスペースを用意し、プライバシーが保てる相談室の利用者数が1年間に延べ約960人に上っているとのこと。また、筑波大学では、改訂版ガイドラインに、カミングアウト後に第三者に暴露される「アウトティング」について、「自死(自殺)といった最悪の結果を招きかねない」ことから「ハラスメントとして対処する」とし、ガイドライン末尾には、「**個人が、それぞれに価値ある存在として自らの能力を開花できる真のダイバーシティ(多様性)の実現を目指す**」と明記されています(「岐阜新聞」5月18日(金))。

また、「LGBTフレンドリー」のサービスを提唱する企業も増えており、今年4月28日(土)から5月6日(日)に開催された国内最大級のLGBT関連イベント「東京レインボープライド」には、過去最高の213の企業・団体が協賛し、LGBTの人々がそれぞれの性的指向や性自認に「誇り」をもって生きることが謳われたとのこと(「毎日新聞」5月14日(月))。

去る5月17日(木)に、岐阜県女性の活躍支援センター長の原永子さんと主査の堀川奈美さんが、センターの活動紹介と今後の連携に係る打ち合わせの趣旨でカモミール・カフェを訪ねていただきました折に、「**岐阜大学LGBTsサークル にじねこ**」 <https://profile.ameba.jp/ameba/gifu-u-lgbt> の話題が出ました。原センター長には、「にじねこ」の活動の記事を目にさせていただいたとのことで、LGBTの学生の支援に取り組んでいる学生サークルの真摯でのびやかな活動に感銘を受けたとのことをお言葉をいただきました。折しも、岐阜県男女共同参画プラザ(OKBふれあい会館)では、LGBTの相談を受け付ける専用電話を岐阜県下で初めて開設したとのこと。

— 岐阜県男女共同参画プラザ LGBT専門相談 —

毎月第3金曜日 17:00~20:00 (祝日、年末年始、OKBふれあい会館休館日を除く)
058-278-0858

専用電話で対応している相談員の方々は、NPO法人などでLGBTの知見を積んだメンバーであり、当事者や家族、友人、パートナー、同僚らからの相談に乗り、必要に応じて別の公的機関や民間団体を紹介するとのこと。

一人ひとりがかげがえのない(異なる)存在であるように、多様性を有する性のあり方——。少数者が尊重される社会は、多数者にとっても生きやすい社会になるのではないのでしょうか。男女共同参画推進室・人材開発部職員育成課では、大学構成員一人ひとりにとって「学びやすく、働きやすい大学」となるよう、学生サークルの皆さんとも連携しつつ、この課題にも誠実に向き合っており、ゆきたいと願っています。

ランチタイム カモミール・カフェ

サイエンス夢追い人育成プロジェクト (女子大学院生による出前講義) 講習会

5月15日(火)、男女共同参画推進室(カモミール・カフェ)にて「サイエンス夢追い人育成プロジェクト(女子大学院生による出前講義)」登録者向け講習会を開催し、6名の女子大学院生が参加しました。

「高校生への出前講義を考える～出前講義を実施する大学院生の皆さんのために～」と題した講習会では、教育学部理科教育講座(物理学)の中村琢准教授が高校教員だったご自身の経験を踏まえて、高校生に授業する際のコツや注意点について、参加者同士のロールプレイを交えながら講義していただきました。

参加した女子大学院生は、すでに自分の研究テーマの面白さや意義を相手に伝えられる能力に溢れたメンバーばかりで、有意義で充実した講習会となりました。

今年度の出前講義は7月から順次、実施する予定です。7月には3校(すべて高校)、延べ4名の講師(女子大学院生)が岐阜県下の高校に赴いて出前講義を担当します。その他にもすでに数校から講師派遣の依頼が来ています。

本事業が小中高等学校の児童・生徒のサイエンスへの興味・関心を高めると同時に、担い手である女子大学院生の研究発表を含めた研究・教育スキル向上に資することを願っています。



講師募集中

出前講義の講師になってくださる女子大学院生を募集しています！
関心のある方は、お気軽に男女共同参画推進室までお問い合わせください。

E-mail : sankaku@gifu-u.co.jp TEL : 058-293-3397

男女共同参画週間

6月23日(土)～29日(金)は、男女共同参画週間です。

(内閣府男女共同参画推進本部決定)

男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには、一人ひとりの取り組みが必要です。

私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか？

走り出せ、
性別のハードルを超えて、今



室員インタビュー

「大学はすべての構成員が成長できる場所」

応用生物科学部共同獣医学科 椎名 貴彦 准教授

室員インタビュー第2回は、男女共同参画推進室の室員になって4年目の椎名貴彦先生にコーディネーターの落合絵美がお話を伺いました。

幼少期から養豚業を営む祖父の姿を見て畜産動物への親しみと生体への関心を持ち、獣医を目指した椎名先生。獣医学科在学中に研究の面白さに目覚めて博士課程に進学し、岐阜大学で研究者としてのキャリアを積み重ねてきました。現在は、食物の栄養を吸収する消化管（食道、胃、小腸、大腸）の運動を制御する神経の役割について研究しています。

椎名先生が農学部（現 応用生物科学部）に着任した頃は、獣医学科（当時）に女性教員が1人もいなかったそうですが、数年前に1人目の女性教員が着任し、現在は女性教員比率が学科全体の2割近くに達するなど、女性研究者が着実に増加傾向にあるとのこと。

ご家庭では、育児と家事をパートナーと分担し、週末は父子でサイクリングや動物と触れ合える場所へお出かけするなど、パートナーと働く時間を調整し合うことでワーク・ライフ・バランスを維持できているそうです。

悩みは夏休みなど長期休暇中の子どもの預け先について。地域の学童施設に入れないため、民間の学童に預けたり大学の研究室で一緒に過ごしたりしながら、去年はなんとか乗り切ったそうです。

【椎名先生からのメッセージ】

職場でしかできない仕事（または自宅でもできる仕事）や細切れ時間の活用など、時間の使い方に敏感になりましょう。そうすることで、小さくても成果（業績）を積み重ねていくことができ、それが「次」につながります。

大学は学生だけでなく教員や職員などすべての構成員が「成長できる場所」。育児や介護などの制約を抱える構成員を支える制度の存在は、サービス利用者の利益にとどまらず多様な人々が参画する社会の形成に役立っており、ひいては社会全体の利益になるのだと思います。

【椎名先生の「あったらいいな」】

小学校の長期休暇中に安心して子どもを預けられる学童サービス



プランターに
お花の苗を植えました。



保育園たより



消防車と記念撮影♪



玉ねぎの収穫も
体験できました。



岐阜大学男女共同参画推進室（人材開発部職員育成課男女共同参画係） URL：http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL：058-293-3378 FAX：058-293-3396 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。